

※副腎皮質ホルモン剤

現在、炎症を抑える最も強力な作用をもつ薬で、ほかにも多くの作用があることから、様々な病気や症状の治療に使用されています。

しかし、作用が強力なため、大量使用や長期間使用をすると、重大な副作用を招く可能性があります。

このため、副腎皮質ホルモン剤は、他の薬では効果のない重症の場合に使用されるケースがほとんどです。

その場合でも、あくまでも病気の症状を一時的に抑える目的で使われます。

他には、副腎皮質ホルモンの欠乏によっておこる病気(アジソン病、下垂体機能低下症、急性副腎不全など)に対して副腎皮質ホルモンを補う目的で使われますが、使用目的のほとんどは炎症を抑えるためです。

副腎皮質ホルモンとは、副腎という臓器の外側の部分(皮質)から分泌されるホルモンで、ステロイド・ホルモンとも呼ばれ、生命や健康を維持するためには欠かせない物質です。

副腎皮質ホルモンには、炎症をおこす原因物質にはたらきかけて強力で炎症を抑える抗炎症作用、血管の壁を緻密にして出血を防ぐ止血作用、病気や外傷など人体に加わったストレスに対する抵抗力を増す作用などがあります。

現在よく使用されているのは、プレドニゾロンとベタメタゾンの製剤です。

副腎皮質ホルモン剤には幅広い作用があることから、様々な病気や症状の治療に使用されています。

